



ゆかり通信  
VOL. 296  
令和4年9月

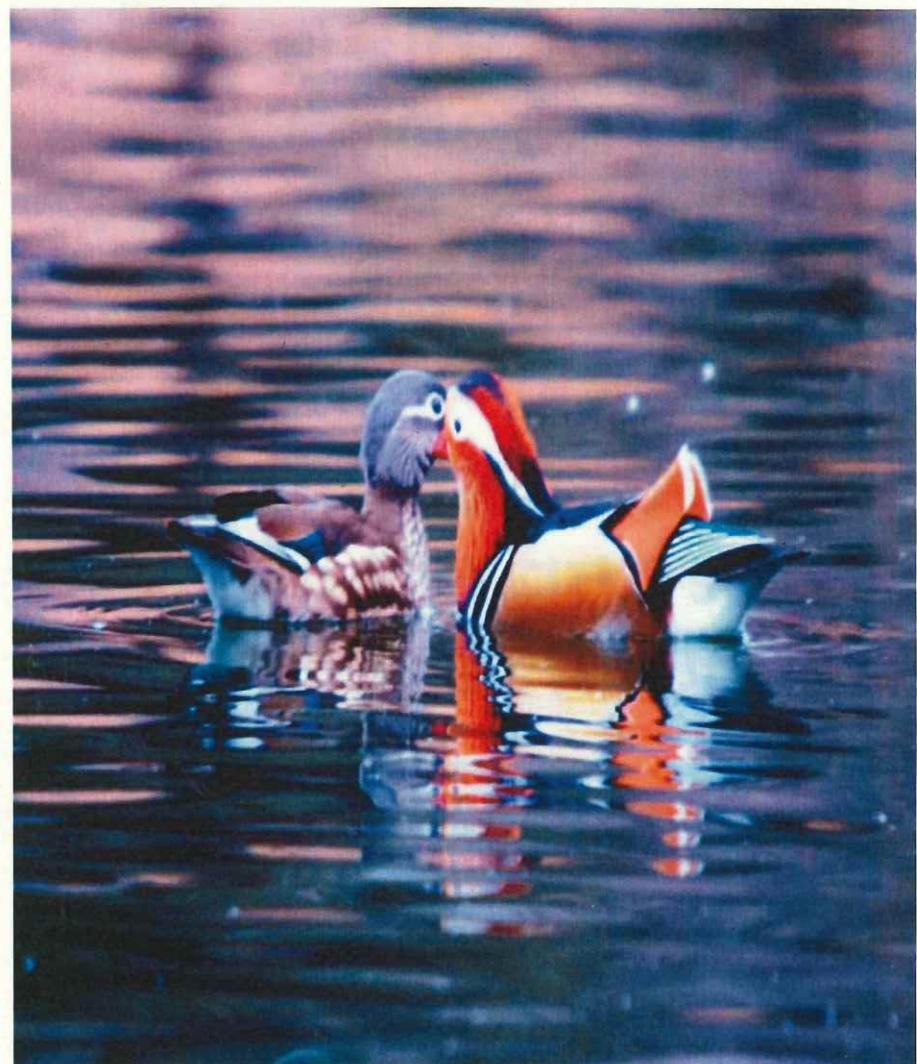
SENSHOJI  
2022 YUKARI NEWSLETTER  
since 1994

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2022年千正寺カレンダー 9月の言葉



「台風がぬけた」  
「台風がそれた」  
みんな基準は私  
(小池秀章氏)

仲良きことは、美しきこと/オシリ

「邪見橋慢悪衆生」（じゃけんきょうまんなくしゅじょう）

月参りでお勤めする「正信偈」に上記の言葉があります。邪見（じゃけん）とは、よこしまな見方という意味で、今月の言葉にある通り、すべてを私の基準で判断するものの見方です。橋慢（きょうまん）とは、自分が正しいと思う、おごった心です。

この原稿を書いている今日は8月2日で、自身の邪見橋慢を思い知らされることが二つありました。

一つ目は通夜の日の間違いです。それは今朝朝刊のお悔やみ欄に、お世話になった方が亡くなったとあり、今晚通夜に行かなくてはと用意をしていると妻が新聞には明日と書いてると教えてくれました。私は2日の新聞に出ているので、今日が通夜だと自分勝手に思い込んでいました。

二つ目はお盆参りの間違いです。今日お盆参りで、○○さん宅に行くと「昨日お参りに来ましたよ」と言われました。私は、住職が間違えて伝えてしまったと思っていましたが、しばらくして法務表を見直すと○○さんは近くにお住いのご親戚の方でした。結局、私がしっかり確認していなかったことで起きた間違いを「私は正しい、間違っていない」と住職のせいにしていました。

このように私の基準で物事を見て（邪見）、私は正しいとおごった（橋慢）者を悪衆生といいます。親鸞聖人は邪見橋慢の悪衆生が阿弥陀様の救いを喜ぶことは、何よりも難しいことだと正信偈に説いて下さっています。それは自分の知識で「分かろう・理解しよう」と力んで教えを聞いていても、浄土真宗の教えは伝わらないことを教えて下さっています。

蓮如上人（浄土真宗 第八代宗主）は、このようなことをおっしゃいました。「かごで水を汲もうとするからたいへんのではないか？かごを水に漬けるような気持でいたらどうかな？」（現代語意訳です）と。「かご」とは邪見橋慢の私であり、網だらけのかご（私）では、水はすぐえません。「水」とは阿弥陀様の救いで、阿弥陀様の救いを「分かってやろう」「理解してやろう」と力むのではなく、阿弥陀様の救いに、すなおにこの身を預けることだとおっしゃっています。

終わりに梯實圓和上（かけはし じつえん、1927年10月3日～2014年5月7日）の『せいてん誌上講演「正信偈」』にある言葉を紹介いたします。「私は知ることも、見ることも、分かることもできないものだ。そういう私を如来様が知り、わかり、見ていてくださる、それでよいのだ、それだけで私はかたじけないのだ」と親鸞聖人のお心を味わっておられます。

（文：鹿谷賢純法務員）